

未来を開く

長井市立長井北中学校 No29 令和6年10月25日

県南ブロック大会で大健闘！ 次の目標に向け、スタートです

10月19日(土)、山形県中学校新人体育大会南ブロック大会が行われました。西置賜地区の代表として出場した選手達は、各会場で熱戦を繰り広げ、大健闘しました。
結果は以下のとおりです。

■団体の部■ ◎は決勝大会出場(競技によっては決勝大会無し)

◎ソフトテニス男子	第3位
◎ソフトテニス女子	第3位
サッカー(長井北・長井南)	1回戦惜敗
ソフトボール(長井北・白鷹)	1回戦惜敗
バレーボール男子	1回戦惜敗
バレーボール女子	2回戦惜敗

■個人の部■ ◎は決勝大会出場

卓球女子	◎東海枝菜希さん(1年)	優勝
バドミントン男子	大道寺霸人さん(2年)	2回戦惜敗
剣道男子(小桜)団体		予選リーグ惜敗
	個人 宮崎 裕也さん(2年)	1回戦惜敗
	今間 怜来さん(2年)	1回戦惜敗

剣道女子(小桜)団体	予選リーグ惜敗
個人 山口 莉奈さん(2年)	1回戦惜敗
◎ソフトボール(長井レッドウイングス)	Aブロック優勝

陸上競技(山形県中学校選手権大会)

鈴木 恵尊さん(2年)	走幅跳 110mH	入賞ならず
小口 祐人さん(2年)	3000m	入賞ならず
布施 春乃さん(2年)	800m	入賞ならず
平林 絆音さん(2年)	100mH	入賞ならず

平和への願いを込めて

令和6年度「長井市戦没者追悼式」が、10月20日(日)長井市民文化会館で開催されました。「平和な未来を築いていくために」と題して、3年の佐野瑞希さんが、長井南中学校3年の松木悠登さんとともに、作文を朗読しました。佐野さんは、歴史の授業で学習した沖縄戦のことについて、更に自分で調べ、考えを深めたことを発表しました。大変素晴らしい内容でしたので、紹介します。

慌ただしく登校の支度をする朝、学校で友達と過ごす楽しいひととき、家族とその日の出来事を語り合う団らんの時間、安心してぐっすりと眠る夜…。当たり前前の日常を当たり前前に過ごせることを、私は、そして私たち現代に生きるすべての人々は、幸せに思いながら生活できているのだろうか、今年、深く考えさせられる出来事がありました。それが、歴史の学習です。「欲しがりません、勝つまでは」「贅沢は敵だ」など、戦争への協力を呼びかける看板、空襲から逃れるために、幼い子どもたちだけで親元を離れた集団疎開、夜空に鳴り響く空襲警報のサイレン、一瞬にしてすべてを奪い去った広島と長崎への原爆の投下…。戦争がどれだけ悲惨で、残酷なものか。戦争がなければ、人々のささやかな幸せが引き裂かれることも、守られるべき人の命が失われることもなかったのに。歴史の学習を通して、やるせない気持ちでいっぱいになりました。中でも、

特に印象深かったのが、多くの住民の命が失われた沖縄戦です。先生は、授業の中でこんなことを言いました。「沖縄戦は、みんなと同じような中学生や女の子の人もアメリカ軍に抵抗したり、ガマというところに逃げて、ひどいときには集団自決したりしてしまう人もいたんだよ。」と。「ガマ」「集団自決」「アメリカ軍への抵抗」…。何もかも初めて聞く言葉。15歳の私には想像のつかないものばかりでした。それと同時に、「沖縄戦についてもっと知りたい」という思いに駆られ、自宅に帰ってから早速調べてみました。調べていく中で、ある1本の動画が目にとまりました。その動画は、実際に集団自決が起こったガマの中で生活していた男性のお話でした。「アメリカ兵は怖い」「投降するのは恥だ」「投降すればアメリカ兵に殺される」「投降して捕虜となるくらいであれば、自決しなさい」…。人々に刷り込まれた教えのもと、住民たちはガマの中で、次々と互いに殺し合う。ガマの中で響き渡る悲鳴や泣き叫ぶ声…。その光景は地獄そのものだったと、男性は言いました。私ならどうするだろう。この地獄と化したガマの中で、希望をもって生きていけるだろうか。さまざまなことを考えさせられました。

しかし、このお話には続きがあります。この男性のおじいさんが、希望を捨てず、アメリカ兵の前へ立ち、交渉したのです。アメリカ兵は、真摯にこの男性のおじいさんの話を聞き、ガマの中に残っていた住民を保護してくれました。

この動画を見たあと、おじいさんが希望を捨てず、敵とされていたアメリカ兵へ歩み寄ろうとする勇氣に、胸がいっぱいになりました。それと同時に、地獄と化したガマを思い返すと、「平和とは何だろう」「なぜこんなことが起こってしまったのだろう」と、苦しい気持ちともどかしい気持ちにもなりました。



私たち一人ひとは、この悲しい歴史を繰り返さないための行動ができていのでしょうか。戦争のない平和な世界は、理想の世界なのでしょうか。今の日本で戦争はなくとも、一人ひとり違うからこそ、人々の間で「対立」が起こるのは事実です。平和な世界であるために、守られるべき尊い命が、当たり前を守られるために、誰もが笑顔で生きていくために、私たちにできることは、「対話」。しっかり相手の話を聞くこと、否定せず受け入れること、互いに納得できるまで粘り強く話し合うこと。そんな些細なことが、「平和」への土台であり、人々の「当たり前が当たり前であることの幸せ」につながるのだと思います。そして、困難に直面しても、動画の中のおじいさんのように希望を捨てずに生きていくこと、それが、私たち現代に生きるすべての人々の使命なのだと思います。

あの沖縄での悲劇を、もう二度と繰り返さないために。

第2回部活動対抗 あいさつカップの結果です！

遅くなりましたが、第2回部活動対抗あいさつカップの結果をお知らせします。結果は以下のとおりです。

あいさつカップ入賞部

- 1位 ソフトボール部
- 2位 女子バレーボール部
- 3位 女子ソフトテニス部



1回目と同様に、女子部が上位を占める結果となりました。男子部の奮起を期待しましたが、食い込むことはできませんでした。

部活動での練習試合や大会等において、会場でのあいさつや競技前のあいさつの様子で、そのチームの持つ雰囲気や競技に臨む心の持ち様を感じることが出来ます。時には、相手を怯ませ、優位に立つことができることもあります。よく「心・技・体」と言いますが、部活動でのあいさつは「心」の部分で大切にしていきたいものです。